

公立大学法人兵庫県立大学経営審議会（平成30年度・第25回）議事録

1 日 時 平成30年10月15日（月）
午後1時30分から午後3時50分

2 場 所 神戸市西区学園西町8-2-1
兵庫県立大学本部2階 大会議室

3 出席者

(1) 理事長	五百旗頭真	学長兼副理事長	太田 勲
副理事長	伊藤 聡	理事兼副学長	浅田 尚紀
理事兼副学長	高坂 誠	理事兼副学長	内布 敦子
理事兼事務局長	戸田 康	理事（非常勤）	中西 均
理事（非常勤）	尾野 俊二	委員（外部有識者）	池野 忠司
委員（外部有識者）	井上 明久	委員（外部有識者）	井上 琢智
委員（外部有識者）	大橋 忠晴	委員（外部有識者）	藤浪 芳子
委員（外部有識者）	南 裕子	監事（非常勤）	中瀬 憲一
監事（非常勤）	安川 文夫	副学長	山崎 徹

(2) 欠席者
委員（外部有識者） 井巻 久一

4 報告事項

(1) 公立大学法人兵庫県立大学における平成29年度の取組に対する評価結果について

事務局から、兵庫県公立大学法人評価委員会より送付があった平成29年度の取組に対する評価結果について、資料に基づき報告があった。

（委員からの主な意見）

- ・ 海外のトップランクの大学は、THE 世界大学ランキングを上げることがを大学全体の方針にしている。本学が国際学生寮を整備して今後留学生の受入拡大を図っていくうえで、こうした国際的な指標は、優秀な留学生を確保するためにも重要である。
- ・ 今回の法人評価が、全体としてほぼ計画通りであることは良いことだが、全体資料では、そこに含まれる各組織や学部の問題が平均化してしまう。各学部等のメリット・デメリットの全体を理解したうえで、PDCAサイクルを回さなければならない。次回は、法人評価の全体資料を作成する際の根拠資料となる各学部の状況まで資料で示してほしい。
- ・ 法人評価では、人材育成という基礎教育について、入口と出口だけで成果を見るため、基礎教育の質の評価がされにくい。ハラスメントや労働環境の問題、学部ごとの教育の質の問題等について、どう適切に評価していくかを考える必要がある。

- ・ 予算にトップの裁量経費を盛り込み、学部長等の年間報告、将来の方向性の説明等をもとに、業績によって学部間の予算を傾斜配分する取組が必要だと思う。

(2) 総合運営会議（県と大学法人が運営上の重要事項等について協議）の開催結果について

事務局から、「①公立大学法人兵庫県立大学の次期中期目標」、「②新学部（国際商経学部・社会情報科学部）の開設に向けた取組状況」、「③産学連携の充実」、「④ニュースバルの産業利用の促進・運営体制の検討」について、資料に基づき報告があった。

（委員からの主な意見）

- ・ ①の次期中期目標について、最も大きな枠組みである「基本的な目標」の段階で既に重複感がある。
- ・ ②の国際学生寮について、留学生の宗教上の問題（食事や祈りの場）に十分配慮すること。
- ・ ④のニュースバルの使用について、SPring-8と同様、成果の公開の有無により使用料に差を設けるといった検討も必要ではないか。

(3) 工学部入試ミスに関する対応等について

事務局から、平成30年度工学部一般選抜（後期）入学試験問題の出題ミスの概要及び対応状況等について、資料に基づき報告があった。

（委員からの主な意見）

- ・ 今回は、結果的に誠意ある対応だったと思うが、再発を防ぐため、精度の高いマニュアルを作成する等、しっかりと取り組んでいかなければならない。

5 その他事項

(1) 平成30年度経営審議会開催予定について

事務局から、平成30年度経営審議会開催予定（次回12月17日、法人本部）について、説明を行った。

以上